

<第9期介護保険事業計画「取組と目標」に関する自己評価シート>
(自立支援、介護予防・重度化防止)

市町村名	南種子町
------	------

取組目標・重点施策等		評価		
健康づくりと自立支援、介護予防・重度化防止の推進		B		
カテゴリ ※複数回答可。該当するものがない場合はチェック不要。				
☒ ①健康づくりの推進 ☒ ③介護予防の推進 ☐ ⑤認知症の人やその家族への支援の充実	☒ ②地域包括ケアシステムの推進に向けた体制整備 ☐ ④在宅医療・介護連携の推進 ☐ ⑥介護人材の確保対策の充実及び生産性向上			
1 第9期計画開始前の現状 ⇒見える化システム、保険者シート等に基づく地域分析結果等 高齢化が進展しており、要介護認定者数は2026年度に295人、2040年度には294人と見込んでいる。 高齢者が安心して住み慣れた地域で暮らし続けるために地域で支え合う仕組みを作り、高齢者の介護予防や要介護状態の軽減、悪化防止のために多様なサービス提供に取り組んでいる。 地域包括支援センターに相談窓口を設置し、住民や医療・介護関係者からの相談に対応している。本人や家族の状況を踏まえ、連携を図っている。				
2 1に対する課題（第9期計画における取組を設定した背景） ⇒R5自己評価等を踏まえた課題等 各ライフステージに応じた効果的な健康づくりの取り組みが求められる。 労働人口の減少による介護の担い手不足が生じている。 高齢者の介護予防や要介護状態の軽減、悪化防止のために多様なサービス提供に取り組む。 在宅医療と介護を包括的に提供するための関係機関の連携が必要。				
3 第9期計画における具体的な取組 (①の課題を受けて第9期計画で設定した取組及びR5自己評価を踏まえて見直した取組) 運動や食生活などの生活習慣を改善して健康寿命の延伸を図る。 フレイル予防や生活習慣病の重度化防止に向けた保健事業と介護予防の一体的な事業を展開する。 高齢者サロン活動に保健師やリハビリ専門職の助言を取り入れ、活動内容を充実させる。 高齢者の健康づくりや社会参加の活動を推進するために、電子地域通貨と交換できるポイントを付与する「高齢者元気度アップ・ポイント事業」を推進。 切れ目のない在宅医療と介護の提供体制の構築を推進する。地域住民への啓発活動をさらに推進し、理解促進を図る。				
4 取組の数値目標及び実績（R6年度末時点）				
項 目	数値目標	実績値		
		R 6	R 7	R 8
①運動器の機能向上	①回数 4回 延人数 50人	3回 56人	-	-
②フレイル予防	②回数 350回 延人数 2,500人	303回 2,195人	-	-
③高齢者サロン活動	③登録数 90件 活動数 3,500件	93件 2,824件	-	-
5 その他実績（R6年度末時点） (4の数値目標の他に今回の自己評価に用いた取組とその実績)				
6 取組と実績を踏まえた課題				
各活動やサービスの効果を具体的に評価し、改善する仕組みが必要である。 住民の関心や参加意識を高め、取り組みを持続的に実施するための仕組みが必要。 住民のさらなる参加を促進する方法を見つける必要がある。 在宅医療と介護の連携を強化するための具体的な支援策が求められる。				
7 課題を踏まえた今後の取組、改善策（R7年度～）				
地域連携を強化し、持続可能な取り組みができるようなコミュニティづくりを推進。 地域住民が参加しやすい啓発イベントを増やし、情報発信の質を向上させる。 入退院調整ルールの円滑な実施・評価・見直しを行い、スムーズな情報共有を支援する。 医療・介護・福祉の連携を強化し、包括的な支援を提供する仕組みを検討していく。				

<第9期介護保険事業計画「取組と目標」に関する自己評価シート>
(自立支援、介護予防・重度化防止)

市町村名

南種子町

取組目標・重点施策等		評価		
高齢者の尊厳を理念としたまちづくり		B		
カテゴリ ※複数回答可。該当するものがない場合はチェック不要。				
☐	①健康づくりの推進	☒	②地域包括ケアシステムの推進に向けた体制整備	
☐	③介護予防の推進	☐	④在宅医療・介護連携の推進	
☒	⑤認知症の人やその家族への支援の充実	☐	⑥介護人材の確保対策の充実及び生産性向上	
1 第9期計画開始前の現状 ⇒見える化システム、保険者シート等に基づく地域分析結果等				
高齢者ドライバーによる交通事故が多発していることが懸念されている。公共交通サービスの維持を図っている。 高齢者の社会活動への参加が生きがいづくりと健康づくりにつながっている。 認知症は特別な疾患ではなく、誰もがなりうるものである。認知症への理解を深めるための普及・啓発活動が行われている。 認知症地域支援推進員が、認知症の人やその家族からの相談を受け、初期集中チームや関係機関とつなぐ役割を担っている。 介護者交流会や認知症カフェで悩みを話し合い、制度の普及・啓発を行っている。				
2 1に対する課題（第9期計画における取組を設定した背景） ⇒R5自己評価等を踏まえた課題等				
高齢者ドライバーの安全運転への意識が不足している可能性がある。バリアフリー化の対応が十分でない地域がある。 高齢者が社会活動に参加する機会がまだ限定的である。 認知症に関する正しい知識や介護情報の普及がまだ不十分である。地域全体で正しい認知症知識のさらなる普及が求められる。 徘徊・行方不明などの緊急時の対応力を強化するために、見守り体制の細部の整備が必要である。				
3 第9期計画における具体的な取組 (①の課題を受けて第9期計画で設定した取組及びR5自己評価を踏まえて見直した取組)				
高齢者や家族を対象とした交通安全教育を推進する。路線バス・コミュニティバス等の運行効率化を進め、利用促進を図る。 地区支え合い協議会や社会福祉協議会と連携し、高齢者サロンや地域ボランティアの育成・活動支援を推進する。 南種子町シルバー人材センターの運営支援を通じて、高齢者の社会参加を推進する。 認知症ケアパスの情報を更新し、ホームページでの普及啓発活動を行う。 認知症の人やその家族を支援する相談業務を行う「認知症地域支援推進員」、早期診断・早期対応に向けた支援体制を構築するため「認知症初期集中支援チーム」を配置。介護者交流会や認知症カフェで、悩みを話し合い理解を深め、精神的・身体的				
4 取組の数値目標及び実績（R6年度末時点）				
項 目	数値目標	実績値		
		R 6	R 7	R 8
①高齢者の見守り支援	①対象数 45人 回数 1,200回	26人 934回	-	-
②認知症初期集中支援チーム	②支援実人数 4人 訪問延人数 20回 チーム員会議の開催数 4回	7人 16回 4回	-	-
③認知症カフェの開催	③開催日数 20回 延人数 150人	14回 99人	-	-
5 その他実績（R6年度末時点） (4の数値目標の他に今回の自己評価に用いた取組とその実績)				
6 取組と実績を踏まえた課題				
高齢者の交通安全意識をさらに高める必要がある。 高齢者の学びや社会参加の意欲をさらに引き出すための新しいアプローチが必要である。 各地区地域全体での認知症への理解をさらに深め、持続可能な支援ネットワークを構築する必要がある。 チームオレンジの活動を持続可能なものとし、地域に根付かせる必要がある。 徘徊・行方不明・災害発生時には、民生委員児童委員・消防団員・地区・集落自治公民館、地域住民等が連携して、安否確認、救助活動が円滑に行えるような、迅速な対応・体制のさらなる拡充が必要である。				
7 課題を踏まえた今後の取組、改善策（R7年度～）				
高齢者が交通安全を理解できるような分かりやすい情報提供を行う。 地域ごとの課題解決に向けてバリアフリー化の協議を実施する。 高齢者が参加しやすい活動や学びの場を増やすための地域協議を行う。 認知症初期集中支援チームの体制強化を行い、訪問活動を継続できるようにする。 緊急時対応のためのシミュレーション訓練を実施し、対応力の強化を図る。				

<第9期介護保険事業計画「取組と目標」に関する自己評価シート>
(自立支援, 介護予防・重度化防止)

市町村名	南種子町
------	------

取組目標・重点施策等		評価		
高齢者を支える仕組みと体制づくり		C		
カテゴリ ※複数回答可。該当するものがない場合はチェック不要。				
☒ ①健康づくりの推進 ☐ ③介護予防の推進 ☐ ⑤認知症の人やその家族への支援の充実	☒ ②地域包括ケアシステムの推進に向けた体制整備 ☐ ④在宅医療・介護連携の推進 ☐ ⑥介護人材の確保対策の充実及び生産性向上			
1 第9期計画開始前の現状 ⇒見える化システム、保険者シート等に基づく地域分析結果等 緊急通報装置をひとり暮らしの高齢者等に貸与して、急病や災害時の緊急対応を行っている。 敬老金支給事業を通じて、満80歳・満85歳・満90歳・満95歳・100歳・101歳以上の高齢者にお祝い金を贈呈している。 老人クラブの活動を支援し、知識や経験を活かした生きがいづくりや健康づくり、奉仕活動を推進している。 高齢者同士の交流を促進し、各種団体と連携して社会参加を促進している。				
2 1に対する課題（第9期計画における取組を設定した背景） ⇒R5自己評価等を踏まえた課題等 介護予防・生活支援サービス事業において、介護サービス事業者以外の多様な主体によるサービスの充実が進んでいない。 老人クラブ活動は各地区において活発に行われているが、未加入者の増加など参加者の偏りが課題である。 地域性から持ち家率が高いため、住宅のバリアフリー化が課題である。				
3 第9期計画における具体的な取組 (①の課題を受けて第9期計画で設定した取組及びR5自己評価を踏まえて見直した取組) 緊急通報装置の操作説明や利用者サポートを充実させ、緊急時対応を見直す。 高齢者の交流や社会参加を促進するため、温泉センターや公民館を活用。 シルバー人材センターや地域団体と連携し、高齢者がまちづくりに参加できる環境を整備。				
4 取組の数値目標及び実績（R6年度末時点）				
項 目	数値目標	実績値		
		R 6	R 7	R 8
①配食サービス(高齢者・障害者)	①実人数 2人 延利用者数 200人	1人 103人	-	-
②緊急通報装置貸与	②貸与台数 15人	11人	-	-
③	③		-	-
5 その他実績（R6年度末時点） (4の数値目標の他に今回の自己評価に用いた取組とその実績)				
6 取組と実績を踏まえた課題 全ての高齢者が利用しやすい、公共交通・送迎サービスの導入について検討が必要。 地域社会全体で高齢者を支える体制の確立が必要である。 社会参加を促進するための支援体制が不十分である。 高齢者の就労希望に応じた多様な働き方の選択肢が不足。 雇用・就労支援が特定の地域や高齢者に集中している可能性がある。				
7 課題を踏まえた今後の取組、改善策（R7年度～） 地域支援事業については、多様な主体によるサービスの提供体制を構築することが難しい。 本地域では、離島過疎地域・人口減少・少子高齢化といった状況から、NPO法人やボランティアのような組織よりも公民館や地縁組織、民生委員といった地域に根差した組織と地域支援事業の親和性が高いことから、これらの組織を活用した地域包括ケアシステムの構築を図る必要がある。 南種子町シルバー人材センターと連携し、高齢者の就労ニーズに合わせた職業情報の提供や相談体制を充実させていく。				

<第9期介護保険事業計画「取組と目標」に関する自己評価シート>
(自立支援, 介護予防・重度化防止)

市町村名	南種子町
------	------

取組目標・重点施策等		評価		
介護保険サービスの基盤整備		C		
カテゴリ ※複数回答可。該当するものがない場合はチェック不要。				
☐ ①健康づくりの推進 ☐ ③介護予防の推進 ☐ ⑤認知症の人やその家族への支援の充実	☒ ②地域包括ケアシステムの推進に向けた体制整備 ☐ ④在宅医療・介護連携の推進 ☒ ⑥介護人材の確保対策の充実及び生産性向上			
1 第9期計画開始前の現状 ⇒見える化システム、保険者シート等に基づく地域分析結果等 全国的に介護人材不足が問題となっており、本町でも介護人材の減少と高齢化が課題である。 地域包括支援センターが地域住民の心身の健康保持と生活安定を目的として機能している。 介護予防ケアマネジメントを実施し、介護予防サービスと地域支援活動を組み合わせた総合的なケアプランを作成している。 地域支援事業では、要支援者等に対する要介護状態の予防や軽減を支援している。				
2 1に対する課題（第9期計画における取組を設定した背景） ⇒R5自己評価等を踏まえた課題等 介護人材の確保が難しく、特に若年層への介護職の魅力をどう伝えるかが課題である。 地域包括支援センターの評価と機能強化を継続的に行う必要がある。 介護予防ケアマネジメントの利用者の自立支援の効果をさらに高める必要がある。 地域包括支援センターの機能強化に向けた人員体制の適切な確保と業務効率化が必要である。				
3 第9期計画における具体的な取組 (①の課題を受けて第9期計画で設定した取組及びR5自己評価を踏まえて見直した取組) 広報誌・ホームページ等で介護保険サービスの周知活動、県や関係機関との連携を強化し若年層に介護職の魅力を発信する。 離職した介護人材の呼び戻しや中高年齢者の就労促進を行う。介護ロボット・ICTの活用により業務効率化支援を行う。 事業主任介護支援専門員を配置し、「地域ケア会議」を通じて自立支援型ケアマネジメントの支援を推進する。 利用者の自立支援を目指し、介護予防サービスと地域支援活動を組み合わせたケアプランの質を向上させる。 適切な人員体制を確保し、業務の重点化・効率化を進め、地域包括支援センターの機能強化を図る。				
4 取組の数値目標及び実績（R6年度末時点）				
項 目	数値目標	実績値		
		R 6	R 7	R 8
①介護職員初任者研修	①受講者数 15人/年	13人/年	-	-
②総合相談支援事業	②相談延件数 100件	116件	-	-
③地域ケア会議推進事業	③会議実施状況 6回 5例	6回 6例	-	-
5 その他実績（R6年度末時点） (4の数値目標の他に今回の自己評価に用いた取組とその実績)				
6 取組と実績を踏まえた課題 今後の高齢化に伴う需要増加への対応策が不十分である可能性。 若年層や離職者が介護職を長期にわたって続けられる環境整備が必要。 現行スタッフの努力で事業を行っている状況であり、地域全体での介護人材確保の取組を行う必要がある。 高齢者虐待防止に関する啓発活動において、更なる住民意識の向上が求められる。				
7 課題を踏まえた今後の取組、改善策（R7年度～） 介護人材の確保が最重要課題。人材確保や育成に向けた新たな支援を検討する。 需要予測を行い、他施設との連携や新施設の設置検討を進める。 介護職のキャリアパスや職場環境改善を提供し、定着率を向上させる。 高齢者虐待防止に向けた啓発活動を充実させ、住民との協力体制を強化する。				